

[第 27 回定時株主総会 主な質疑応答 (要旨)]

Q1. 東証一部上場銘柄になったが、今後の影響についてお聞かせください。

A1. 東証一部上場によって高い信用力を得ることができ、今後は取引先との関係構築や人材採用等も含めて、企業を取り巻く環境がより良くなっていくと考えている。また、経営においては、高い倫理観を持って、コーポレートガバナンスを効かせながら、社会に貢献していくように努める。

Q2. 自社の株式を保有していない取締役が数名いるが、取締役の自社株式の保有についてどのような方針を持っているのか。

A2. 取締役の株式保有が長期的な業績に対するコミットメントになるのであれば良いと考えている。現状は特に方針を決めていないが、今後検討させて頂く。

Q3. 利益剰余金について。配当するなど株主還元の余地はあるのか。

A3. 利益剰余金については、今後のさらなる成長のために IP に投資したいと考えている。なお、利益剰余金は配当原資という側面もあり、引き続き、株主の皆様にとって何が一番の株主還元策となるのか検討する。

Q4. 糸井取締役伺いたい。この会社のどこに魅力を感じて社外取締役になっているのか。

A4. この会社の常識や慣習に囚われない新しい発想には常に驚きがある。そしてその驚きを実現する力があると、社会に対し影響力を持ち、世の中を変革することが出来るということに気がつかせてくれた。驚く立場にいられることは非常に幸運であり、この会社のそのような「面白さ」に魅力を感じている。私自身も平凡な意見ではなく、もっとすごいことを考えなければと思っている。

Q5. 2015 年 3 月期の総販売台数は前期同水準であったが、業績が前期から落ち込んだのはなぜか。

A5. 当社の遊技機販売はパチンコとパチスロで収益構造が異なり、相対的にパチスロの方が売上高、利益とも大きくなる傾向にある。2015 年 3 月期は、前期と比較するとパチンコ機が増加し、パチスロ機が減少したことで業績が落ち込んだ。

Q6. 2016年3月期の通期見通しについて。前期比20%増程度の増収総益の計画だが、具体的に教えてください。

A6. 2016年3月期は、遊技機販売において販売機種数が増加すること、また、固定費削減に向けて事業の見直しを進めていることから、増収増益を見込んでいる。

Q7. IPのクロスメディア展開が成長戦略であると思うが、収益化には時間がかかるのではないか。

A7. 当社は、将来にわたり持続的に成長し続ける企業を目指し、浮き沈みのあるメディアに依存しないIPを軸とした戦略を推進している。今後、数年かけて戦略の正当性を証明させて頂きたいと思うので、是非ご期待ください。

Q8. 円谷プロダクションの運営やコンテンツの利用について、同社株式を49%保有するバンダイ社との間で取り決めはあるのか。

A8. 当社が円谷プロダクションの株式を取得した際、バンダイ社と当社の間で商品化に関する利用契約を締結している。但し、企業間の守秘義務契約があり詳細についてはコメントを差し控えさせて頂く。

Q9. フィールズの利益率は、遊技機メーカーに比べて低いがどのように考えているのか。

A9. 遊技機業界における利益は、開発利益、製造利益、流通利益に分けることができる。遊技機メーカーは、この全てを得ることができるが、当社は元々流通を担う会社であり、流通利益が中心となっている。

Q10. フィールズはカジノに対してどういう見解をもっているのか。

A10. 仮にカジノ法案が成立し国内に統合型リゾート施設ができた場合、ライブエンタテインメントのようなカジノ以外の周辺ビジネスが集客の要になると考えている。

このため、カジノ以外の周辺ビジネスにおいて、特にIPビジネスと密接に関係するものについては積極的に参入を検討したいと考えている。

Q11.東京ドームにフィールドズの看板があるが、そのような企業広告はほかにもあるのか。また、野球場に来る人にとってどの程度の効果があるのか。

A11.野球場へ広告を出しているのは東京ドームのみであり、野球場へ来た方よりもテレビで野球を観戦する方に向けた広告である。

これまで野球場に来られた方に対する効果測定をしたことはないが、今後検討していく。

以上